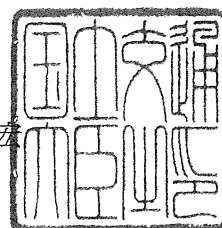


認 定 書

国住指第 260 号
平成 25 年 6 月 10 日

吉野石膏株式会社
取締役社長 須藤 永一郎 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 46 条第 4 項の表 1 の(八)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FRM-0447
2. 認定をした構造方法等の名称
厚 12.5mm 普通硬質せっこうボード／ねじ PS3841MW／外周部@100mm、中通り@150mm／大壁造の床勝ち入隅仕様／木造軸組耐力壁
3. 認定をした構造方法等の内容
2.3 の倍率を有する軸組と同等以上の耐力を有する軸組、別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造の概要

(1) 面材の概要

a) 面材の名称及び規格

名 称：普通硬質せっこうボード

規 格：JIS A 6901：2009（せっこうボード製品）

種類の記号：GB-R-H

b) 寸法

	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)
寸法	12.5	910	1820, 2420, 2730, 3030
		1000	1820, 2420, 2730, 3030
許容差	±0.5	-3, 0	0, +3

c) 側面加工形状

ベベルエッジ又はスクエアエッジ

d) 品質の基準

性 能：

含水率 (%)	曲げ破壊荷重 (N)		単位面積当たりの質量 (kg/m ²)
	長さ方向	幅方向	
3 以下	700 以上	250 以上	12.5~18.1

外 観：せっこうボードの両面及び側面には、使用上有害な欠け、割れ、
汚れ、きずなどがあってはならない。

(2) 軸組材の仕様概要

部 位		寸 法 等
柱、土台、胴差、桁、梁	断面寸法	105mm×105mm 以上
継手間柱	断面寸法	45mm×105mm 以上
間柱	断面寸法	27mm×105mm 以上
胴つなぎ	断面寸法	60mm×45mm 以上
受材	断面寸法	30mm×40mm 以上 30mm×120mm 以下 または 45mm×36mm 以上 45mm×120mm 以下
面材の継手となる柱の間隔		910 mm 以上 2000mm 以下
面材の継手となる継手間柱の間隔		910mm 以上 1000mm 以下
間柱の間隔		455mm 以上 500mm 以下
横架材間の内法寸法	1 枚張り	2080mm 以上 3000mm 以下
	縦継ぎ張り	2080mm 以上 3075mm 以下

(3) 接合具の仕様

- a) 名称：PS3841MW (φ3.8 mm×41 mm)
- b) 表面処理：塩水噴霧試験 (JIS Z 2371:2000) 240 時間において赤錆が発生しない表面処理 (ディスクグラニュー処理、ディスク処理、デュラルコート、ジオメット処理又は電気亜鉛めっき Ep-Fe/Zn8/CM2C (JIS H 8610 : 1999、JIS H 8625 : 1993)) を行う。
- c) 連結方法：テープ連結
- d) 対象となるねじの識別方法：面材とセットで出荷。

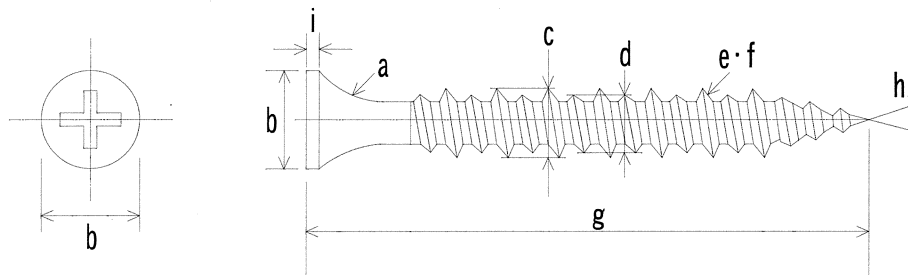
ねじの形状、寸法及び材質を図 1 に示す。

(4) その他の仕様

a) 床下地材の仕様

- 1) 規格：合板の日本農林規格 (平成 20 年農林水産省告示第 1751 号) に規定する構造用合板 2 級以上
- 2) 接着の程度：特類
- 3) 厚さ：12mm 以上 28mm 以下

(5) 接合具図



PS3841MW (φ3.8 mm×41 mm)					
a. 頭部形状	トランペット (ラッパ)		i. 頭厚	0.7±0.2	
b. 頭部径 (mm)	8.2±0.25		胴部径 (mm)	2.35±0.15	
c. 高い山径 (mm)	3.8±0.15		ねじ山角度	50° ~60°	
d. 低い山径 (mm)	3.2±0.15		ねじ切り部長さ (mm)	35.2	
e. ねじ山定数	2 条ハイロー		十字穴深さ (mm)	2.85~3.25	
f. ねじ山数 (inch)	18 山		十字サイズ	JIS B 1012 : 1985 H 形 2	
g. 全長 (mm)	41±1.2				
h. 先端形状	尖り先 20° ±5°				
熱処理	表面硬さ	600HV~750HV (JIS Z 2244 : 2009 による。)			
	心部硬さ	340HV5~450HV5 (JIS Z 2244 : 2009 による。)			
	浸炭硬化層深さ	0.08~0.23mm (JIS B 1055 : 1995 による。)			
ねじり強さ	3.0N・m 以上 (JIS B 1055 : 1995 による。)				
材質	SAE1018				
	化学成分 (%)				
	C	Si	Mn	P	S
	0.15~ 0.20	—	0.60~ 0.90	0.030 以下	0.050 以下

図 1 ねじの形状・寸法及び材質 (寸法単位：mm)

2. 耐力壁の適用範囲

- (1) 当該面材を使用した耐力壁の適用範囲は、建築基準法施行令第 40 条から第 49 条(ただし、第 48 条第 2 項は除く)に準拠した木造軸組とする。
- (2) 当該面材の用途は、木造軸組建築物の屋内に面する部分で、かつ、常時湿潤状態となるおそれのない部分とする。
- (3) 建築基準法施行令第 46 条第 4 項の表 1 に定める軸組又は昭和 56 年建設省告示第 1100 号に定める軸組を併用する場合は、倍率 5 を限度としてそれぞれの倍率を加算できるものとする。

3. 耐力壁の施工仕様の概要

(1) 軸組材

- ①柱、土台、胴差、横架材の断面寸法は 105mm×105mm 以上とする。
- ②間柱の断面寸法は 27mm×105mm 以上とする。
- ③面材の横方向の継手となる継手間柱の断面寸法は 45mm×105mm 以上とする。
- ④面材の縦方向の継手となる胴つなぎの断面寸法は 60mm×45mm 以上とする。
- ⑤面材を留め付ける受材の断面寸法は 45mm×36mm 以上 45mm×120mm 以下とする。
- ⑥面材の継手となる柱の間隔は 910mm 以上 2000mm 以下とする。
- ⑦面材の継手となる継手間柱の間隔は 910mm 以上 1000mm 以下とする。
- ⑧横架材間の内法寸法について、縦継ぎ張りの場合は 2080mm 以上 3075mm 以下、1 枚張りの場合は 2080mm 以上 3000mm 以下とする。
- ⑨床下地材に取り付ける受材の断面寸法は 30mm×40mm 以上 30mm×120mm 以下(下側受材)とする。
- ⑩面材が取り付く胴つなぎは、床下地材上面から 1820mm の位置(胴つなぎ芯)に取り付ける。
- ⑪入隅部の柱に取り付ける受材の断面寸法は 45mm×36mm 以上 45mm×120mm 以下とする。
- ⑫横架材と上側面材の掛かり代は、30 mm 以上とする。

(2) 面材の割付

面材は軸組に直張りとし、張り方は横架材間に胴つなぎを設けて 2 枚の板で縦継ぎ張りとするか、または 1 枚の版で縦張りとする。ただし、2 枚の版で縦継ぎ張りとする場合、下側の面材の長さは 1820mm とし、上側の面材の最小長さは 262mm とする。

(3) 面材の留め付け

- ①面材は、PS3841MW を用いて、面材の外周部ではねじ相互の間隔を 100mm 以下で柱、受材、横架材、継手間柱、胴つなぎに、面材の中通りの部分ではねじ相互の間隔を 150mm 以下で間柱に留め付ける。入隅部の直交する 2 枚の面材の隙間は 1mm 以下とする。
- ②ねじが有効に作用するように、面材の端部とねじとの間隔(へりあき距離)は、柱、横架材、胴つなぎ、下側受材、面材勝側受材及び面材負側受材では 15mm(許容差: ±5 mm)、継手間柱では 12mm(許容差: ±2 mm)とする。

- ③面材の外周部及び中通りの部分におけるねじ本数について、面材の長手方向及び短手方向の辺長 (H、L) からへりあき距離 (H1+H2、L1+L2) を減じた長さ (H-(H1+H2)、L-(L1+L2)) を算出し、その長さを各部のねじ間隔 (P、Q) で除する。外周部のねじ本数はその値の小数第一位を切り上げて 1 を加えた値とし、中通りの部分のねじ本数はその値の小数第一位を切り上げて 1 を減じた値とする。なお、図 2 に示す通り、面材四隅のねじは長手・短手両方向のねじ本数として数えることとするが、中通りの部分と外周部のねじを結ぶ直線上のねじは、中通りの部分のねじ本数として数えないものとする。
- ここで、L は 910mm から 1000mm のいずれかの値、H は耐力壁の施工仕様に応じた下側もしくは上側の面材の長さの値、H1 及び H2 は 15mm、L1 もしくは L2 については、柱及び入隅部では 15mm、継手間柱部では 12mm、P は 100mm、Q は 150mm とする。

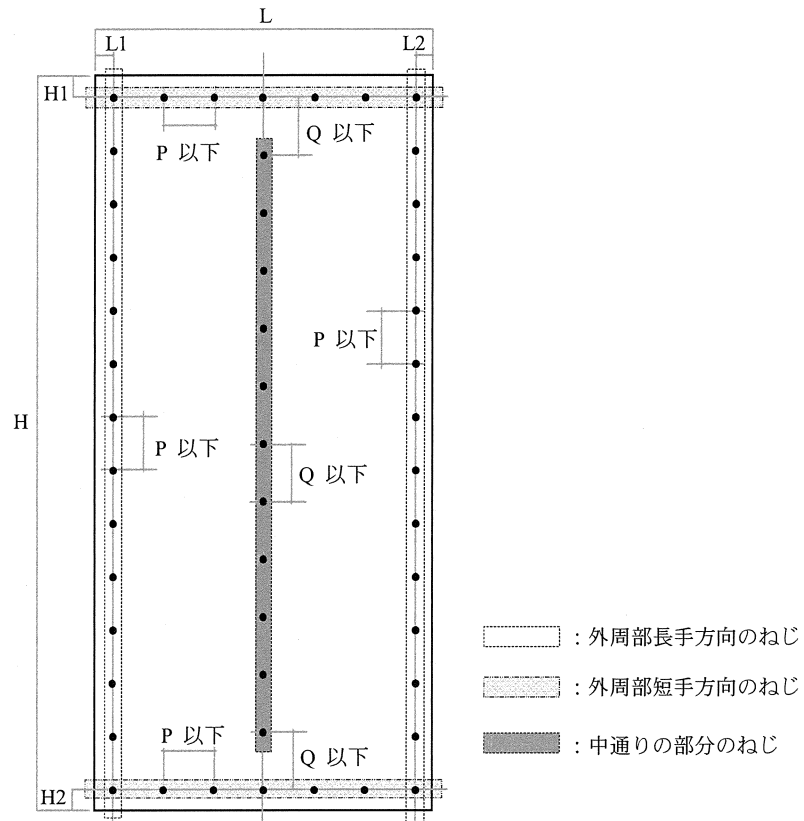


図 2 各部のねじ本数

(4) その他の施工仕様

- ①床位置では、床下地材を厚さ 12mm 以上 15mm 以下の場合、鉄丸くぎ N50 (JIS A 5508 : 2009) を用いて、厚さ 15 mm 超え 20mm 以下の場合、鉄丸くぎ N65 (JIS A 5508 : 2009)、厚さ 20mm 超え 28mm 以下の場合、鉄丸くぎ N75 (JIS A 5508 : 2009) を用いて、くぎ相互の間隔を 150mm 以下で土台又は横架材に留め付けた後、断面寸法 30mm×40mm 以上 30mm×120mm 以下の受材を鉄丸くぎ N75 (JIS A 5508 : 2009) を用いてくぎ相互の間隔を 150mm 以下で床下地材に留め付ける。ただし、床下地材留め付けくぎから 10 mm 以上ずらして受材のくぎを留め付ける。
- ②入隅部では、受材を鉄丸くぎ N90 (JIS A 5508 : 2009) を用いてくぎ相互の間隔を 150mm 以下で柱に留め付ける。

(5) 施工図

施工図を図 3.1~図 3.4 に示す。

(単位 : mm)

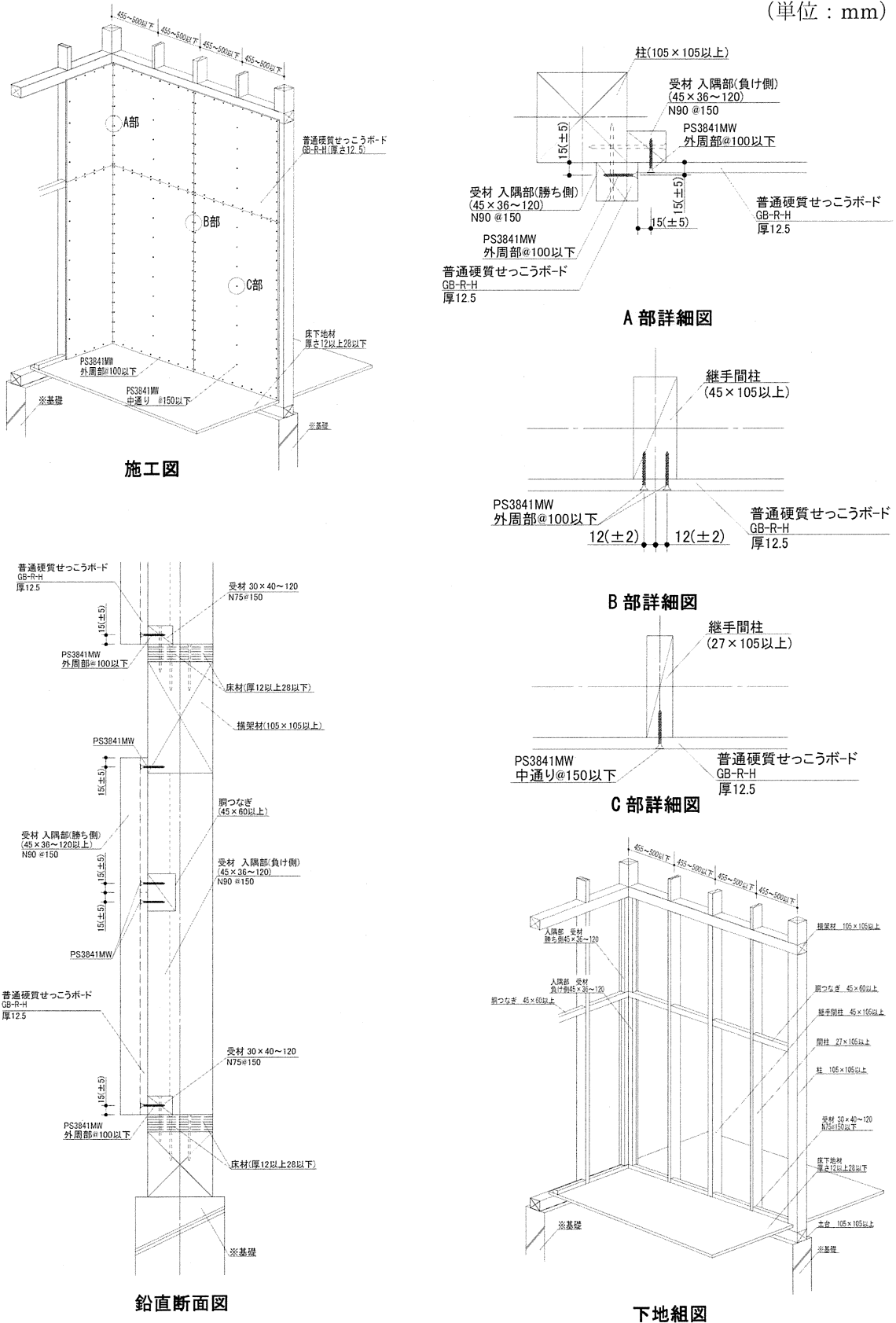
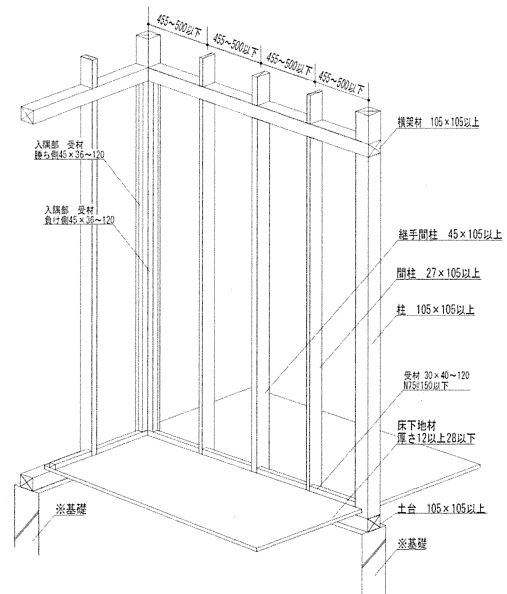
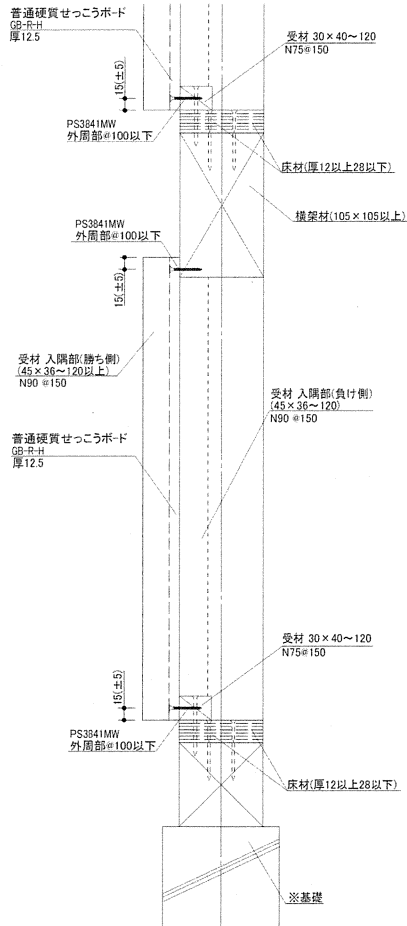
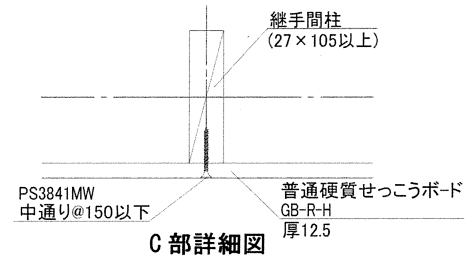
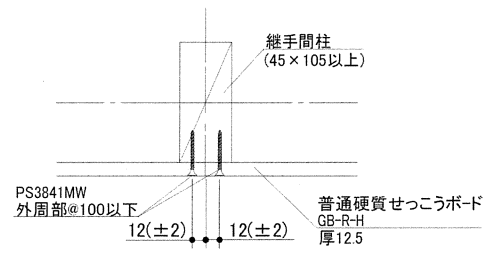
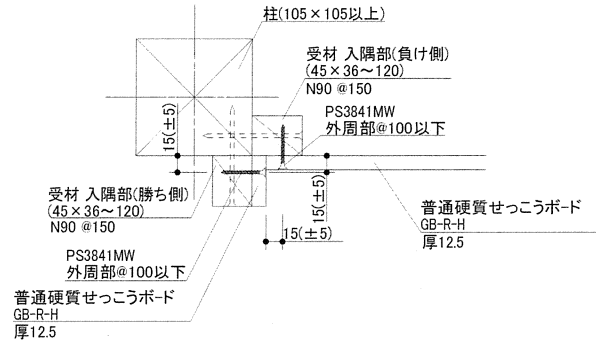
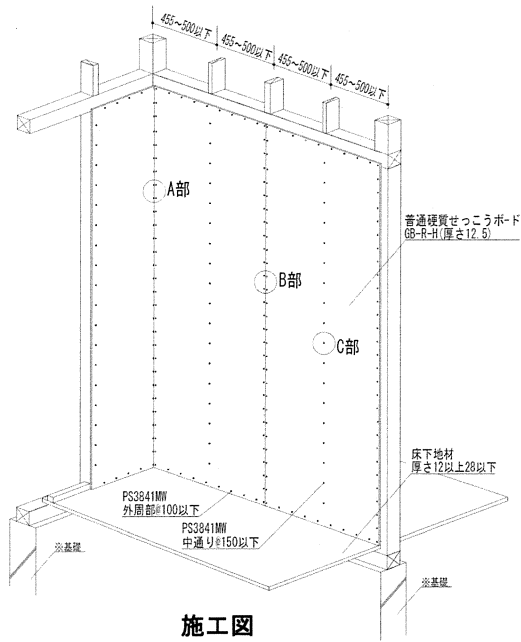


図 3.1 施工詳細図 : 縦継ぎ張りの場合 (寸法単位 : mm)

※ 基礎は適用範囲外である。

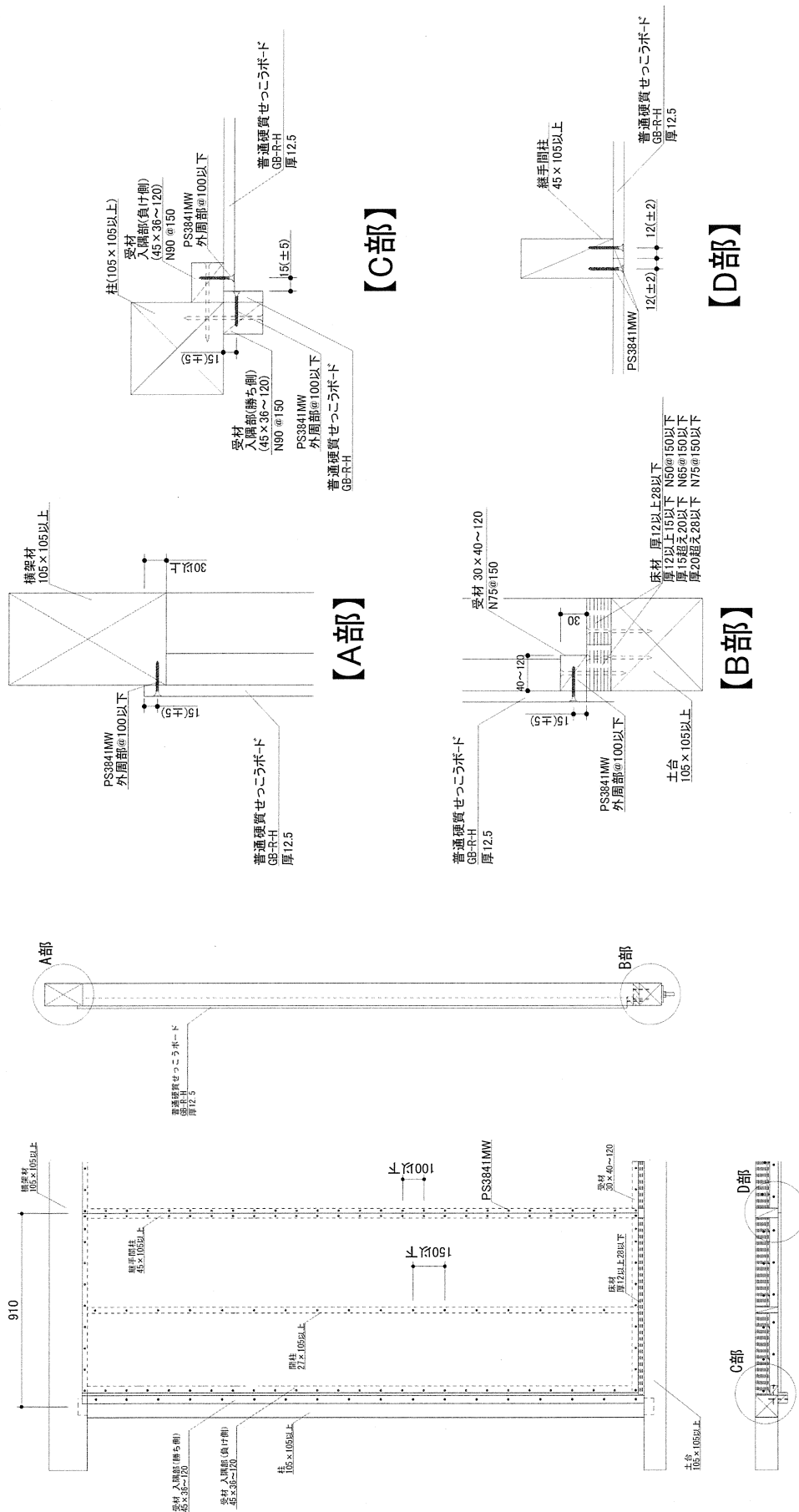
(単位：mm)



※ 基礎は適用範囲外である。

図 3.3 施工詳細図：1枚張りの場合 (寸法単位：mm)

(単位：mm)



詳細図

面材の納まり

図 3.4 施工図：1 枚張りの場合 (寸法単位：mm)